

第71号
 発行日:令和4年10月1日
 発行所:東京青山同窓会事務局
 〒111-0032
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101
 工藤 義夫 (74回)
 e-mail:info@tokyo-aoyama.org
 TEL:090-1704-2413
 HP:https://www.tokyo-aoyama.org/
 発行者 日下部朋子 (82回)

東京会報

東京青山同窓会
 -東京青山同窓会年間維持費-
 1口1,000円/2口以上(年間)
 会計幹事:高山佳郎(83回)
 振込先:極力①でお願いします。
 ①郵便振込口座 00150-9-4074
 加入者名 東京青山同窓会
 ②三井住友銀行京橋支店 普 8430640
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

東京会長 挨拶
 佐藤 信秋 (74期)



先日、新潟の本部同窓会に出席しました。コロナ感染防止に十分配慮しながらの3年振りの開催ということでしたが、東京はどうするか、感染の広がりが状況を見ながら、しかるべき時期に決定しようと、ということでもあります。

残念ながら、コロナは未だに収束の方向には入っておりませんね。感染症関係の医学会も、厚労省も、暗中模索が続いています。岸田総理も、また、この原稿執筆時点ではコロナで隔離、リモート執務ですが、昨日電話頂き、本人は元気なのです、というお話でした。ワクチン接種が効いて、全体的に重症化の割合が少なくなっているようです。

さて、先日行われた知事選、参院選では、花角英世、小林一大両同窓生が見事に勝利しました。それぞれ同期前後の皆様が特にカー杯運動して頂いたとのことで、新潟の将来に重要な闘いだった、と私からも御礼を申し上げます。有り難うございました。
 2022.8.29

コロナ終息いつ? 「総会&歓迎会」...なお様子見!



同窓会で
“ますらおを叫ぶ”

みなさま
 お待ちかねの
リアル同窓会

“新人”さん!
 いらっしやい!

開催は いま少し
 お待ちください!
 ウクライナに自由を
 コロナよ さらば...

そして、晴れて
盛大に同窓会を!
 祝・130周年

◆ 会うは別れの始まり
 人間 到る処 青山あり ◆
 ◆ We never meet without a parting.
 Aoyama-Glory awaits you everywhere. ◆

「今日までそして明日から」
 何か行き詰まった
 時に聴いた人生訓


◆ 私は今日まで生きてみました ◆
 時には誰かの力を借りて
 時には誰かにしがみついて
 ※私は今日まで生きてみました
 そして今私は思っています
 明日からも こうして生きて行こうと ※

◆ 私は今日まで生きてみました ◆
 時には誰かを あざ笑って
 時には誰かに おびやかされて
 ※ 私は今日まで生きてみました ※
 そして今私は思っています 明日からも こうして生きて行こうと ※

◆ 私は今日まで生きてみました ◆
 時には誰かに 裏切られて
 時には誰かと 手をとり合って
 ※ 私は今日まで生きてみました ※
 そして今私は思っています 明日からも こうして生きて行こうと ※

私には 私の生き方がある それはおそらく自分というものを
 知るところから 始まるものでしょう けれど それにしたって
 どこで どう変わってしまうか そうです わからないまま生きて行く
 明日からの そんな私です 私は今日まで生きてみました

歌・作詞・作曲
吉田 拓郎
 <<今年、卒コン>>



新潟高校 TV放映; BS東京 8/1
 ~ 詳しくは 2頁目を見てください




創立130周年
 新潟県立新潟高等学校

毎週月曜 夜10時放送
名門校

ウクライナに勝利と平和を!
 さらば コロナよ!

~ いずれも 長期戦 ~

アルファ株
 デルタ株
 オミクロン株
 BA.1 → BA.2.5
 ケンタウロス?

ウクライナ



コロナ

青山
 本2022年は創立
130年
青陵

※新潟で10月15日
 記念祝賀会予定
 (詳細 未)

《お知らせ》
 ~ コロナ動向をみながら ~

- ・2022総会 & 歓迎会; 未定
- ・カジュアル丈夫会 & 火曜会 未定
- ・ミニ臨時総会 & 幹事会・予定 (別途案内)

<会計担当; 川上康夫(79期)> 年会費2千円の納付先
 ①郵貯銀行 ; 00150-9-4074 または
 ②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

問合

<事務担当> ~ よろずご連絡など ~
 事務局長 ; 工藤義夫(74期) 090-1704-2413
 info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

本年・2022年 <祝◆母校創立130周年> ... 三世紀に亘って!

<創立>
 1892(M25)



♪青陵♪
 (中学校歌; 1922)

1954(S29)焼失
 ↓ 同年
 青山同窓会発足
 ↓ <1~4期工事>
 1960(S35)完工

女子入学
 (1950年; 61期・数名)



理数科
 男女比; 半々
 全県一区

<現校舎>
 1999年~
 (平成11)

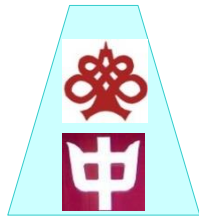


未来へ
 女子6割

“名門校紹介「新潟高校」” 放映 2022.8.1 ; TV東京BS

編集:事務局・工藤義夫

創立“130周年” 記念



1982創立～1950女子入学～1995理数科設置～2008全県一区～2016女子制服

県内全域から集まるトップ集団！新潟高校が“国公立医学部合格”に強い秘密

2022.8.1 THE名門校～日本全国すごい学校名鑑

名門校の知られざる姿を、生徒や親、教師など、さまざまな視点を通して紐解く情報ドキュメンタリー「THE名門校！日本全国すごい学校名鑑」(BSテレビ東京、毎週月曜夜10時)。「名門とはいったい何か?常識を打ち破る教育現場に密着する。

今回紹介する名門校は、新潟屈指の進学校「県立新潟高等学校」。県内全域からトップレベルの生徒たちが通学している。進学先も東大・京大をはじめ難関大学が並び、特に医学部合格者が多いのが注目ポイントだ。番組では、優秀な生徒が集まる理由を探るとともに、全国レベルの実力を持つ高校3年生の飛び込み選手に密着。同校の名物でもある体育祭でチームリーダーを務めた彼は、ある試練に直面していた。

男女共学で全校生徒は1083人。2022年度春の大学合格実績は、東大・京大を含む国公立大に178人、早慶上理に46人が現役で合格。注目すべきは国公立医学部に47人の合格者を輩出している点だ。卒業生いわく「神童も県高入ればただの人」。トップレベルの頭脳を持った生徒が集結する高校なのだ。

元々県内一だった県高が、さらに実績を上げたきっかけの1つは、2008年度の入試から始まった「全県1区制」。県内全域から通えるようになったことで、より優秀な生徒が集まるようになった。そして医学部の合格者が多い理由の1つが、1995年に設置された「理数科」だ。1学年9クラスのうち2クラスしかなく、県高の中でも狭き門といわれている。理数科では、2年生になると、科学を究める「サイエンスコース」、医学部や歯学部を目指す「メディカルコース」に分かれ、生徒たちはどちらかを選択し、切磋琢磨する。

こちらは、執務室の廊下にずらりと並ぶホワイトボード。実はここ、朝でも昼でも放課後でも、先生の手が空いていればいつでも質問できるスペースで、生徒たちが続々とやって来る。テスト前には、すべてのホワイトボードが埋まってしまふことも。県下一の進学校ながら、部活動も盛ん。テニス、野球、サッカー、ラグビーの4つの部が一緒に使える広いグラウンドがあり、ラグビー部の3年生は引退せず、冬の「花園」を目指すという。また、日本一長い信濃川で練習に励むボート部は、この夏、5大会連続で「インターハイ」出場。フェンシング部も「インターハイ」の常連で、今年も8人出場。中でも、2大会連続出場の佐野颯人くん(3年生)は、「ジュニアオリンピック」にも出場している。放送部は、今年の「全国高校放送コンテスト(新潟県大会)」で、何と6部門すべてで全国大会に出場。そのうち2部門で準決勝進出が決まった。部活動はもちろん、さまざまな校外活動に挑戦できるのも県高の特徴だ。コンピューターのプログラミング競技に熱中する生徒や「数学オリンピック」に挑む生徒、古代地中海文明の言語を研究する医学部志望の生徒も「やりたいことをやる風潮」が校内を満たしている。

県高入学にあたり“ある決心”をしたフェンシング部・佐野颯人くんの日常を紹介する。遠いのでアパートで自炊し、東大も目指す。

早稲田大学を目指す、藤田優くん(3年生)もその1人。県高名物、ド派手な体育祭「青陵祭」でチームリーダーを務めた優くんは、水泳の飛び込み選手。未来のトップアスリートを発掘するため、スポーツ庁などが立ち上げたプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」の1期生で、「インターハイ」の他、「日本選手権」や「国体」にも出場した全国レベルの実力者だ。ところが、そんな彼に大きな試練が。大学の推薦入試に重要な定期テストと日本選手権出場につながる大会が重なってしまったのだ。どちらも負けれない勝負。優くんいわく「心が折れそう」な試練だが果たして乗り越えられるか?気になる続きはぜひ番組で!

◆動画配信 → <https://www.bs-tvtokyo.co.jp/meimonkou/>



小川校長:県内各地、高み目指し、交流強化し、切磋琢磨し、挑戦する気概を持つことが大事と。燕労災病院・小泉健医師(H12卒); 神童も県高入ればただの人... 実際 神童の集まりだもの...



野崎先生:僕も受験したんですけど僕は残念ながら通りませんでした。そう、日本はそれに世界ではじめて成功してる。海洋研究開発機構・野崎理生(107期);理数科1年生に課外講義。第1期の理数科受験も通りませんでした。



サイエンスコース、メディカルコース、他にも、様々な校外活動に挑戦できるというのが県高の特徴。



県内随一進学校、女子比率は5割を超え2022年度は6割に。放課後は職員室前のボードで自由に聞ける。



数学オリンピック本選出場・東大理工志望。古代フェニキアのアラム語など...京大医学部志望。



燃える「青陵祭」が戻ってきた。... コロナ後、学校グラウンドには3年ぶりに... 全力で...



ボート部 インターハイ5大会連続出場。ラグビー部 花園出場 2回



フェンシングの佐野颯人くん。佐野颯人 アパートで...



藤田 優くん。飛び込み日本選手権へ。定期テストと大会 乗り切れるか?



毎週月曜 夜10時放送

“新人(130期)”寄稿1 ~よろしくお願ひします~

<各組・幹事9名>

さかづめ たつや ＜坂爪 達哉 ~1組クラス幹事＞

第130期1組クラス幹事坂爪達哉です。東京大学文科二類の在籍です。大学で他人の話や聞くと、勉強にも部活にも行事にも全力で取り組む新潟高校の校風は特別だったと改めて実感しました。

高校では野球部に所属し甲子園を目指して仲間と頑張った経験が自分自身を大きく成長させてくれたと思ひます。わが学年は最後の青陵祭もエコスタで実施でき、楽しい思い出を作れました。コロナの影響は受けても、充実した高校生活だったと思ひます。大学では、数学や経済学の他にも心理学や文学、社会学、西洋美術まで幅広い分野を学んでいます。今年度は規制緩和で基本的に対面授業ができています。サークル活動も、バドミントンサークルで楽しく活動しています。意識の高い仲間も多く、日々刺激を受けています。新生活で慣れないことも多いですが、頑張っていこうと思ひます。

東京大学入学式
武道館大ホール



うちだ ゆみ ＜内田 結実~4組クラス幹事＞

第130期4組の内田結実です。星薬科大学薬学部薬学科に在籍しています。化学や生物に加え、身体の仕組みや漢方薬についてなどのように専門的な内容の授業も始まりました。現在は全ての授業が大学での対面方式となっており、毎日元気に通っています。4月から始まった東京での一人暮らしにも少しずつ慣れ始め、平日は学校、休日はアルバイトと、忙しい日々を送っています。高校在学中、マネージャーとしてサッカー部に所属していました。修学旅行や部活の遠征など楽しみにしていた行事も次々と中止になり、新型コロナウイルスの影響をたくさん受けた3年間でしたが、個性豊かで最高の仲間たちと過ごした日々は一生忘れられない宝物になりました。たくさんの思い出とたくさんの笑顔くれた友人や先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。素敵な思い出で溢れる新潟高校の同窓会の一員となれたことを光栄に思ひます。至らない点も多いと思ひますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

ひらの すずな ＜平野 鈴奈~7組クラス幹事＞

第130期7組クラス幹事を務めることになりました平野鈴奈です。今春から、国立看護大学校に在籍しております。

高校時代はサッカー部でマネージャーをやっております。また、青陵祭で副連合長として活動し、総合優勝を勝ち取りました。

COVID-19の影響で沢山の制限がある中ででしたが、沢山の人の協力、そして、仲間たちとの絆で、多くのことを学び、思い出を作ることが出来ました。新潟高校での思い出は忘れられることはありません。

現在は、看護学を大学でほぼ対面で学んでおり、医療従事者の方々の多大なる努力を日々身に染みて感じております。多くのことに目を配り、患者に寄り添える看護師になれるよう日々精進したいと思ひます。最後になりますが、青山同窓会の一員として恥じぬよう活動していく所存です。至らぬ点も多いと思ひますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

おとがわ ぶんりゅう ＜乙川 文隆 ~2組クラス幹事＞

130期2組クラス幹事を務める乙川文隆です。東京大学文科一類の在籍です。教養課程では、第二外国語にロシア語を選択し、幅広い学びに励んでいます。後期課程では法学部進学を予定し、都市行政・地方自治を学び、将来は政治家として日本や新潟の課題解決を主導していく所存です。大学在学中にも様々な経験を積もうと考えていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。高校時代は、フェンシング部と書道部を兼部し、ラグビー部に助っ人として参加しました。大学入学後もフェンシング部に入部し、先輩方や同期と切磋琢磨する毎日です。フェンシングは、「筋肉を使ったチェス」とも呼ばれ、激しい動きの中で相手の動きを読み、緻密な戦略を練って点をもぎ取る競技です。自分の持つ能力を最大限に使い、国公立大学の頂点を目指していきます。まだまだ成長の途上ではありますが、新潟高校で得た学びを社会に還元し、よりよい丈夫像を追求し続けます。

◆高3時、国際地理オリンピックで金メダル獲得！

令和4年度 東京大学入学式
4月12日(火) 武道館大ホール



たなか じんご ＜田中 仁悟 ~5組クラス幹事＞

第130期5組クラス幹事の田中仁悟です。今春から、東京海洋大学海洋生命科学部海洋生物資源学科に在籍し、入学式では新入生代表として宣誓をさせていただきました。高校時代は、サッカー部と園芸部に所属していました。大学でも引き続きサッカーサークルとフットサルサークルに所属しています。大学では教養科目の授業を受けつつ、専門的な学習を進めています。特に、水族病理学に興味があるため化学分野を重点的に勉強しています。加えて、船上での実習や魚の解剖などの授業など、この大学でしか学べないことを学べてとても有意義な時間を過ごしています。その他にもロードバイクなどの新しいことにも挑戦し、悔いのない大学生活が送れるよう励んでいます。一日一日を大切に、社会で活躍している同窓生の一員になれるように努力してまいります。よろしくお願ひいたします。

やまくち こうへい ＜山口 耕平~8組クラス幹事＞

第130期8組クラス幹事を務めます山口耕平です。現在は東京工業大学物質理工学院に通学しています。本学院は他大学にはないような学部で、よく何をするのかと聞かれますが私の稚拙な国語力では、名前の通り物質全般にわたって研究をするような学部としか形容できないのがもどかしいです。また本校は専門性に重きを置いている大学で、1年次から最先端の科学・技術に触れることができ、刺激の多い毎日を送っております。高校時代は主にフェンシング部に所属していました。主にとりわけ、2年生の秋頃からラグビー部の助っ人としてラグビー部の練習に行くようになります。最後の大会もラグビーの大会だったからです。人数が足りないからと泣いて続ける友達の頼みを断れなかったのが理由です。しかしどちらの部活でも代え難い経験や思い出ができ、感謝の気持ちがあります。今後は青山同窓会の一員として微力ではございますが、その活動に貢献していく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

しまくら こうすけ ＜嶋倉 康輔 ~9組クラス幹事＞

第130期9組クラス幹事の嶋倉康介です。新潟高校では卓球部とクイズ同好会に所属していました。この春から東京大学理科学部一類に在籍しています。東京での一人暮らしを始めてからは、生まれて以来住み続けた新潟との違いに驚かされるばかりです。清少納言は『枕草子』で「春はあけぼの。」と春の朝の趣を感じ取っていますが、私は上京して早々、都会の夜に趣を見出しました。真夜中でも輝く広告と娯楽施設の照明、思わず耳を塞ぎたくなるような騒音、そして行き交うさまざまな表情。日本の不夜城は私の心を昂らせるとともに、穏やかな新潟の雰囲気を楽しませてくれました。さて、一人暮らしは私の思った以上に難しいものでした。持ち前の計画性のなさや先延ばしにする癖のせいで、時間を有効活用できていないように感じます。これからの生活の中で、「社会の中で生きる」ために必要な能力を培っていきたくと思ひます。これからは青山同窓会の一員、新潟高校の代表として邁進したいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

たむら あさひ ＜田村 旭 ~3組クラス幹事＞

第130期3組クラス幹事の田村旭です。今春より早稲田大学文学部に入学し、主に英語や第二外国語として選択した中国語、日本史等、人文学系の科目を学んでいます。高校時代は、山岳部と茶道部に所属していました。現在は大学の茶道サークルに所属して裏千家の茶道を学んでおり、いっか御茶席で点前を披露することを目標として稽古に取り組んでおります。大学では、新型コロナウイルス感染症の影響による様々な制限も次第に緩和されてきていると感じており、私の履修する授業はほとんどが対面で実施されています。そのため多くの新しい友人と出会うことができ、楽しく充実した大学生活を送られていることに感謝の念を抱くと共に、大変嬉しく思っております。また、今後も新潟高校で学んだことや経験したことを活かし、青山同窓生の一員としての誇りを持って過ごしてゆく所存ですので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

おかだ そうま ＜岡田 壮真~6組クラス幹事＞

130期の6組幹事となりました、岡田壮真です。春からは青山学院大学の理工学部機械創造工学科に進学し、勉学、部活そしてアルバイト等に励み、順調に大学生活を送っています。一人暮らしにも慣れ、毎日刺激のある生活でとても有意義な時間を過ごせています。高校時代は男子バレーボール部に所属していました。新潟高校では勉学はもちろんのこと、部活動や学校生活では精神ものな面や、人間的に大きな成長をすることができました。大学では新型コロナウイルスの流行の鎮静化に伴い、前期ではすべての授業が対面で行われました。将来の夢のために2、3年後にはアメリカの美術大学に入学したいという野望がありますが、今現在、再び流行の兆しがあるので感染拡大防止に配慮しながら大学生活を楽しむのを忘れずに自分にできる行動をしていきたいと考えております。

“新人(130期)”寄稿2 ~よろしくお願ひします~

<各組・有志11名>

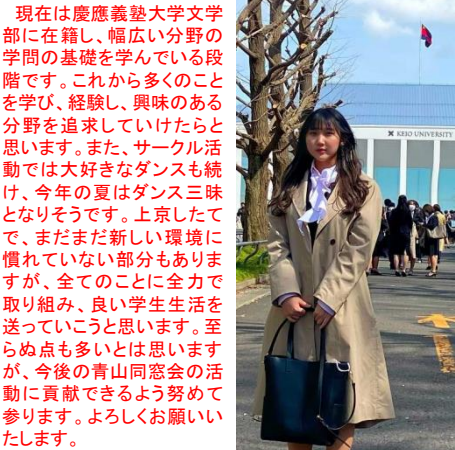
＜氏家 安希～1組クラス有志＞

第130期1組の氏家安希と申します。現在、明治大学法学部法律学科に在籍しております。高校では弓道部に所属してあり、昨年夏にはインターハイの団体戦に出場させていたことが出来ました。応援して下さった皆様、本当にありがとうございます。現在は法律相談部と、三曲研究部という和楽器サークルに所属しております。両者共に弓道と直結する部分はありませんが、弓道部で培った己と向き合い続ける姿勢を大切にす一方で、より視野を広く持てるように努め、精進して参ります。
大学では、高校までの勉強と勝手が違い、戸惑うこともありますが、以前から学びたいと思っていた学問分野に触れることができ、大変嬉しく思っております。また、様々な背景をもつ友人もでき、刺激を受ける毎日です。コロナの感染拡大が収まらず、依然として油断出来ない状況ではありますが、諸先輩方と元氣にお話できる日を楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ致します。



＜小林 佳奈～2組クラス有志＞

第130期2組クラス幹事の小林佳奈です。高校では漕艇部に所属していました。部活動では、全力でお互いを高めあう良い仲間と出会うことができ、先生方、先輩方、後輩には多くのことを学ばせていただきました。コロナウイルスの流行により、思うようにはいかないことも多くありましたが、部活動だけでなく、行事・日常生活などすべてが思い出深く、とても充実した3年間でした。



＜平岩 日向～2組クラス有志＞

第130期生2組の平岩日向です。現在は早稲田大学国際教養学部所属しています。大学では、英語で行われる授業についていくのに必死ですが、新潟高校で培った丈夫魂のおかげで、一学期目を無事終了することができました。また、まだまだコロナ渦ではありますが、対面の授業も増え、学園祭などの行事も企画されており、徐々にキャンパスにもコロナ前の活気が戻ってきているように思います。
高校では美術部に所属していましたが、大学では写真や映像など、様々な表現方法に挑戦してみたいと思い、早稲田大学の出版団体ENJIと映画研究会というサークルに入会しました。上京しての頃は、果たして自分は東京で暮らしていけるのかと不安でしたが、大学では個性の方々から日々刺激をもらい、毎日、東京という街に圧倒されるながらも、楽しく過ごしています。
しかし、それと同時に、やはり地元の新潟こそいばんだなとも、毎日身にしみて感じています。コロナウイルスが再び猛威を振るい始め、東京と新潟の行き来も難しい時期ではありますが、大学に入学して広がった様々な交友関係はもちろん、新潟高校での友人とも交友を深めながら充実した4年間を過ごせるよう邁進していきたいと思ひます。

＜加藤 大陽～3組クラス有志＞

130期加藤大陽です。一橋大学商学部1年です。春夏学期では数学や英語などの教養授業に加え、会計学や経済学など経済系の分野を広く浅く学びました。思ったより授業の内容や課題は厳しいですが、どの授業も面白くためになるのでやりがいがあります。また、一橋の商学部は1年生からゼミがあり、高学年になったときに向けてゼミの進め方の練習をしていきます。ゼミでは、データ分析に関する本を読みグループで発表したり議論したりするというものでした。
高校時代は物理部でした。バイトができなかったため、新しくバイトを始めてみました。現在は飲食店のホールとして働いています。大変ですが、他者との接し方などで学ぶことが多いです。サークルはボランティア系のサークルに入っています。主に駅の周辺でゴミ拾いを行います。地域の人から褒められる時はすごく良い気分になります。ゴミ拾い以外にも活動をしているので、積極的に参加していきたいです。



＜関根 愛果～3組クラス有志＞

東京女子大学国際英語学科に在籍しています。関根愛果です。私は将来留学したいと思い、留学が必須のカリキュラムに含まれているこの大学へ進学しました。新型コロナウイルスの影響は未だにありますが、大学ではオンライン授業から全面対面授業に変更になり普通の生活に戻りつつあると感じています。仲の良い友人もでき、バイトも始まり有意義な大学生活が送れています。
私は高校時代、何かの部活にずっと入り続けることがなく軽音同好会の一員として活動していました。大学では軽音サークルと海外の人との交流サークルに入りました。新型コロナウイルスの感染拡大により中々思うように参加できないところもありますが、これから夏に向かって様々なことに挑戦していきたいと思ひます。至らない点もありますがこれからよろしくお願ひします。

＜伊藤 力～4組クラス有志＞

130期4組の伊藤力です。高校時代はボート部に所属しておりました。ボート部では多くの良い仲間と出会うことができ、その仲間がいたからこそ受験期にはお互い励まし合いながら辛いときを乗り越えられたと思っています。今でもよく連絡を取っており、一生の友達です。現在は慶應義塾大学理工学部1年に在籍しています。今年から多くの授業が対面で行われるようになり、サークルなども主に対面で行われています。昨年までは多くの授業やサークルがオンラインで行われていたと聞いていますので、大学生らしい生活を送らせて頂けていることに感謝の念を日々感じています。サークルではプログラミングなどを行なっているのですが、悪戦苦闘中です。一つのエラーを直すのに何時間もかかることが平気であります。いやになることも多いですが、そんな時はボート部の仲間と話をしてもらうことで、少しずつ努力していけたらなと思ひます。4年間の大学生活が新潟高校での生活に負けなくらい充実したものになるように頑張ります。

＜新井田 大翔～5組クラス有志＞

第130期5組の新井田大翔です。筑波大学理工学群工学システム学類に在籍しています。現在、数学や物理、プログラミングなどを学んでいます。新型コロナウイルスの影響で、最初はほとんどオンライン授業で、少し寂しかったのですが、サークル活動などを通して新しい友達ができたので良かったです。7月頃からは少しずつ対面授業も増え、大学生になったという実感が湧いてきました。
高校時代は、サッカー部に所属していました。毎日の部活動が本当に楽しく、3年生の時にはチームの目標であったリーグ優勝も達成することができました。最高の仲間と本気でサッカーができた3年間は私にとって宝物です。部活動も受験勉強も、新潟高校という素晴らしい環境と仲間がいたからこそ頑張ることができたので、本当に感謝しています。青山同窓会の一員になることができ、とても光栄に思ひます。今後ともよろしくお願ひ致します。

＜江口 美夏～6組クラス有志＞

第130期江口美夏です。武蔵野大学薬学部に在籍しております。高校では硬式テニス部に所属。新型コロナウイルスはまだ猛威を振るい、先が見えない不安を感じている方も多いと思ひます。私はそのような、高校時代の思い出をも思い出すがあります。私たちの世代はコロナ禍の影響を強く受け、様々な行事が中止になりました。しかしだからこそ、工夫して取り組んだ青山ウィークや最後の青陵祭が強く印象に残っています。特に青陵祭では道具チーフを務めさせて頂き、リーダーという立場に慣れていながらも係全員で協力して作業を進めることが出来たと思ひます。あの時の貴重な体験は現在の私にも大きく影響を与えていると考えています。これからの大学生活も高校時代の経験や反省などを活かし、自分の行動に責任をもって過ごしていきたいと思ひます。

＜林 彩花～7組クラス有志＞

第130期7組の林彩花です。東京農業大学応用生物科学部食品安全健康学科に所属。化学の基礎的なものから食品中の構成物質といった専門的なものまで幅広い化学を学んでいます。今年度からコロナ対策のオンライン授業が殆ど通常授業に戻り、感染対策を徹底しながらも毎日通学できるといのは本当にありがたい環境です。高校では弓道部に所属し、自身との向き合い方・日々全力を尽くすことへの楽しさを教わりました。弓道部への憧れから新潟高校への進学を決めたこともあり、この部活は私にとって大きな存在です。大学では、高校時代のような経験を新たな形で得たいと思ひ、ほぼ音楽未経験ですが管弦楽部に入部し、チェロを引いています。経験者の多い中で0から始めるのにはそれなりの勇気が必要でしたが、現在では色々な方に教えて頂きながら、日々成長出来る楽しさを実感しています。今後も、大学生特有の時間の自由さを有意義に用いて、新しいことに挑戦していくことと思ひます。最後になりましたが、青山同窓会の一員にならせていただいたことを光栄に思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

＜若井 理香～8組有志＞

早稲田大学商学部所属の若井理香です。大学ではディズニー研究会に所属。ディズニーが大好きな人たちはばかりなので、無限にディズニーの話題で話を繋げられます。大学生になったらディズニーの年パスを買い、1週間に1回はディズニーに行く予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により年パスの発売が中止になっています。毎回チケットを買いなさいといいたいため、現在は月1、2回のインパになっています。ぜひオリエンタルランドさんには平日限定でも構わないので年パスを復活して頂きたいところです。大学の授業は1年の前半が終わり、特に基礎会計学が興味深かったです。早稲田の商学部にきて本当に良かったと思える授業でした。会社の利益が高い方がいいという常識が一気に覆っただけでなく、教科書や偉い教授が言っていることを全て鵜呑みにしてはいけないと学びました。この文章が発行される頃には30年が経ちたいと思ひます。大学の変わり方は、30年が経ちたいと思ひます。話は変わりますが、最近ハマっている本のシリーズがあります。大学生でBLUE MOMENTという出版社を起業された方が出版している本です。2022年8月までに5冊の本が出版されていますが、その中でも特にジャクリン・ケネディとココ・シャネルがお気に入りです。私も彼女達のように世界を舞台に活躍できるよう、残りの大学生活も頑張りたいと思ひます。



＜宮川 真緒～9組クラス有志＞

第130期卒業生の宮川真緒です。現在、東京農業大学の応用生物科学部醸造科学科に在籍しています。高校では男子バレーボール部のマネージャーをしていました。忙しい日々ではありましたが、素敵な顧問と仲間にも恵まれて熱意をもって部活動に励むことができました。その中で学んだ仲間の大切さや、周りを見て気づく力、心配りなどは自分の今やこれから生きていくと思ひます。皆さんの経験をさせてくれた顧問には感謝してもきれません。大学では醸造について、主に微生物などを学んでいます。1年生のうちから専門分野を学べる環境なので、勉学に励み将来の自分に繋げていきたいと思ひます。また、サークル活動ではサークルを始め、新たな挑戦に苦戦しながらも懸命に取り組んでいます。自由に何事にも取り組める環境に感謝しながら、限られた日々を大切に生活したいと思います。まだまだコロナウイルスも収拾しておらず大変な日々ではありますが、皆さんお氣をつけてお過ごしください。

“2022年報道の「青山ゆかりの方々」”

“追悼”

編集:工藤義夫(事務局)

【河村亮氏 逝去】 日テレ・アナ(青山94期) 2022.5.14 スポーツ報知他

日本テレビの河村亮アナ死去54歳、(脳出血)。スポーツ中継の中心的存在。体調不良訴え3月~入院。

日本テレビの河村亮アナウンサーが脳出血のため14日に死去した。54歳。同局が16日、公表した。通夜、葬儀は近親者のみで執り行う予定。同局によると最後の仕事は3月19日に出演したラジオ日本の「日テレアナ・ザワールド!」(土曜午後10時半)で、テレビでも3月3日にBS日テレで放送したプロ野球巨人×西武戦の巨人リポーターを務めるなどしていた。その後、体調不良を訴え、入院していたという。

河村アナは早大政経学部から91年に日本テレビに入社。プロ野球や箱根駅伝、オリンピック、ゴルフなど同局のスポーツ中継の中心的存在として活躍した。「ウッチャンナンチャンのウリナリ!!」など、バラエティーのナレーションなども務めた。94年に初めてプロ野球実況を務めた際は巨人元木、岡崎、大久保の3連続ホームランも伝えた。12年にはイチローが来日したMLBの日本開幕戦マリナーズ—アスレチックスも実況した。



【河村 亮さんの追悼文】-1 ~ 附属中・新潟高校 ~

94期 ; 吉原 直毅
(マサチューセッツ大学教授 経済学者)

河村亮君とは、小学校以前からの幼馴染であり、同級となる機会は無かったが、小学校から高校まで同じであった。小学6年時の前半は共に児童会の役員として一緒に過ごす時間も多かったし、中学時代は、共に卓球部に所属した。また、進路が完全に分かれた大学進学後も、母親同士のママ友時代からの付き合いは続いており、折に触れて亮君の近況については母親から伝え聞く機会があった。

そして気が付くと、亮君はスポーツ系を中心とするアナウンサーとしてTV番組等で大活躍するようになっていたのだが、「彼によく合っている」と思っていた。先輩のモノマネをやって皆の大喝采を受ける等、子供の頃から喋りが流暢なばかりでなく、軽やかなところがあったからだ。

3年前の19年8月に中学同期の小さな集まりが東京であり、そこで彼と高校卒業以来の再会を果たした。その瞬間から彼は「いやっ、会いたかったんだよ〜!」と大変に懐かし気に、何度も語り掛けてくれた。翌日もSMSに「久しぶりに会えて嬉しかったです。またぜひよろしく願います!」と残されていた。本当に心から、再会を喜んでくれていたのだと、感動したものだ。

これからは、もっと気軽に会える機会が何度もあるものと思っていたのだが、世の中がコロナ禍となり、結果的にそのメッセージが彼からの最初にして最後のものとなってしまった。自分にとっては、もっとも古くからの友人を失くす事でもあり、哀惜の念ひとしおだ。

【河村亮さんの追悼文】-2 ~ 附属中・新潟高校 ~ 94期 ; 野崎 雅恵 (ジャーナリスト、ライター)

同期の河村亮くんが亡くなった。

ネットニュースのトップ記事で彼の訃報を知った。その後も続々と追悼記事が上がり、どの記事のコメント欄にも彼の功績を讃え、死を惜しむ人々の声が溢れている。「選手をリスペクトし、サービス精神を忘れない、日本テレビが誇るアナウンサーでした」。日本テレビ杉山社長の言葉を涙で聞いた。

河村くんは神奈川県茅ヶ崎市に生まれ、幼稚園から早稲田大学入学まで新潟で過ごした。東中野山小学校では生徒会長として活躍するなど目立つ存在だったと聞く。

附属中学で同じクラスになったのが河村くんとの出会いだ。学級委員長の彼は私たちの面倒をよく見てくれた。端正な顔立ちで語るスパイシーなユーモアが皆を惹きつけた。彼も私も同じ卓球部で、スマッシュで勝負し合ったのは懐かしい思い出だ。

上京後、長く会わない時間が続いた後に、中学の同窓会で再会し、以来ときどき会っては近況を報告し合った。昔と変わらず辛口の裏に深い愛情のある、聡明で、優しく、心から信頼できる人だった。

増上寺で行われたお通夜には中学の仲間11名で参列し、その夜は遅くまで河村くんを偲んで酒を酌み交わし思い出を語り合った。早すぎる死が無念でならない。

恒例の附属中の同期会で (新潟高校) マイクで歌



TVのキャスター・アナウンサー・記者
青山の系譜 ; 70期代 ~ 126期



斎藤洋一郎 ; 78期
NHKアナ→新新潟支社長
(早稲田大)



大越健介 ; 88期
NHK記者、キャスター
→ TV朝日・報道ステーション
61歳 (東大・文)



味方 恵子 ; 91期
NHKアナ→ 退社
ジューター-com.人財開発部長
(一橋大)



伊藤聡子 ; 94期
TBS→アサヒ→フリー
都会を出て暮らそうよ/BSJ
(東京女子大)



河村 亮 ; 94期
日TVアナ;箱根,プロ野球
★2022.5.14歿 54歳★
(早稲田大)



松井みどり ; 94期
フジTVアナ→
ナレーター、舞台活動
(横浜市大)



村山 朋彦 ; 94期
新潟TV21アナ →
報道制作局長 (慶応大)



山田 貴幸 ; 94期
NHK新潟シニア・アナ
54歳、(東北大・数学)



熊倉 悟 ; 97期
NHKアナ→名古屋Direc
(東北大・工)



佐々木美佳子 ; 103期
チューリップTV →
新潟放送BSN → 退社
(慶応大)



成澤 良 ; 105期
NHK記者
担当;都庁 → 安全保障
(東大)

(参考)

島津有理子;新潟市生
NHK7ナ→退社→医師
女子学院・東大経卒
(母;青山74期)

野口葵衣;新潟市出身。
NHK福岡局アナ
→ 現在『プラタモリ』
頒栄女子中高,慶應法卒。



白井綾乃 ; 117期
NHK記者;国際部→社会部
(お茶の水女子大)



庭野ほのか ; 126期
札幌テレビ/ 新卒
(千葉大)

(附属中の同級生)
(附属中・同期生)

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

新刊本 (祖国を逃れ...シリア)
西村書店 (青山72期・西村正徳)
2022.3.26 朝日新聞「天声人語」紹介

ラフィク・シャミ
『ぼくはただ、物語を書きたかった』
発行 2022年02月17日

ミヒヤエル・エンデと並び称されるドイツのベストセラー作家ラフィク・シャミは、20代でシリアから亡命し、50年間をドイツで暮らしてきました。亡命前後の揺れ動く心情、ドイツ語の作家・語り部になるまでの紆余曲折、変わらぬ信念と創作の舞台裏を率直に明かした渾身のエッセイ。

ラフィク・シャミ

ぼくはただ、
物語を書きたかった。

松永美穂 訳



西村書店

(天声人語) 祖国を逃れ

2022/3/26付

路地裏にただようケバブの香り。超満員の客を乗せて疾走するバス。活気あふれる香辛料市場。中東シリア出身の作家ラフィク・シャミ氏(75)の小説には故国の雑踏がいきいきと描かれる▼政治風刺に満ちた寓話(ぐうわ)で知られる。ドイツ語で著した作品が30以上の言語に翻訳される欧州の人気作家だ。初の自伝的随想集『ぼくはただ、物語を書きたかった。』の邦訳が先月刊行されたばかりだ。アサド大統領の弾圧を批判し、帰りたいくても帰れない母国への思いをつづる▼学生時代に筆をふるった政治批判の壁新聞が当局から発禁処分を受け、亡命を決意。ドイツの大学で博士号を得て、作家の道へ。母国を去ってもう50年が過ぎた▼いま最も心を痛めているのはウクライナ情勢だ。「プーチンは犯罪者です。皇帝の時代のようにロシアを強大にしようと夢見ています」。メールを介した取材に作家はそう答えた▼長きにわたるシリア内戦でロシアは兵力を提供し、アサド政権の後ろ盾となった。戦禍を避けて国外へ逃れたシリア難民は680万人。一方、ロシア軍の侵攻でウクライナを逃れた人々は早くも370万人にのぼる。中には詩人や音楽家たちもいた▼自分の国に戻るのを許されないことが、どれほど人間の尊厳を傷つけるか。新著にそんな一節があった。国連機関の昨年の統計によれば、世界に難民は2660万人。祈っても願っても自分の国に戻れず苦しむ人がかくも多いとは。亡命作家の言葉がいま、いっそう重く響く。

『世界 パンデミックの記録 コロナに立ち向かう人類 の挑戦』 2022年5月14日

2020年年明けから2021年初夏までの約一年半、AFPが撮影した驚くべき地球の記録。カラー 世界 パンデミックの記録 コロナに立ち向かう人類の挑戦 ★最新刊
マリエル・ワード 編 AFP通信 写真青柳正規
日本語版監修 前島美知子 訳
発行年:2022年5月14日
定価:本体3,500円+税

『クリスマスとよばれた男の子』
インターネットラジオ「さくらRADIO」紹介
2021年12月15日

24時間オリジナル番組を放送する全米日本語インターネットラジオ「さくらラジオ」にて、『クリスマスとよばれた男の子』(マット・ヘイグ 文 クリス・モルド 絵 杉本詠美 訳)を紹介いただきました。

■番組制作兼パーソナリティ 藤木優子さんによる「今月のオススメ児童書」ポッドキャストにてご視聴いただけます！ぜひお聞かせください。

<https://sakura-radio-e42b7d0b.simplecast.com/episodes/navi-jtjgpxo>



西村書店

『クリスマスとよばれた男の子』がインターネットラジオ「さくらラジオ」で紹介されました

天声人語



西村書店 最新情報



西村書店

医学書を中心に芸術書、絵本、一般書を発行する総合出版社

カラー 世界 パンデミックの記録

コロナに立ち向かう人類の挑戦

マリエル・ワード 編 青柳正規 日本語版監修 前島美知子 訳

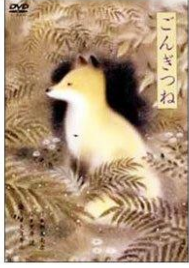


AFP ● 西村書店

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

絵本作家・イラストレーター 「黒井 健」画業50年 10月末～絵本原画展・新潟市 ＜青山74期＞



【プロフィール】

1947年新潟市生まれ。川崎市在住。新潟大学教育学部中等美術科卒。日本児童出版美術家連盟会員。学習研究社幼児絵本編集部を経てフリー。2003年5月「黒井健絵本ハウス(清里)」開館。2010年9月、新潟市立中央図書館こどもとしゃかん名誉館長に就任。

《作風と評価》

色鉛筆を用いた独特の繊細な絵柄で知られる。1983年、第9回サンリオ美術賞受賞。2006年、『またたびトラベル』(茂子久美子)で、第20回赤い鳥さし絵賞受賞

《画集・著書》 著書は200冊を超える



一画業50年のあゆみー 黒井健 絵本原画展

『ごんぎつね』借成社(C) ken kuroi
2022年10月29日(土)から12月25日(日)
休館日 月曜(11月21日、12月19日は開館)
開館時間 午前10時から午後5時
観覧料 一般1,000円
『ごんぎつね』借成社(C) ken kuroi
第18回新潟教育アート展

EXHIBITION
新潟市新津美術館
SCHEDULE
展覧会のご案内 2022-2023



「黒井 健」代表作・抜粋



「黒井 健」画業50年 ～絵本作家になった、きっかけと こだわり、読み聞かせの心得等～

◆絵本作家 黒井 健 さんインタビュー

『ごんぎつね』『手ぶくろを買いに』などでおなじみの絵本作家・黒井健さん。優しく柔らかなタッチの絵で“色鉛筆の魔術師”とも呼ばれる黒井さん。絵本作家になったきっかけや絵本制作におけるこだわり、読み聞かせの心得などを伺いました。

◆編集者として足を踏み入れた絵本の世界

子どもの頃から、手先は器用だったんでしょうね。図工は小学校の頃からずっと5。家庭科も5でした。中学生の頃の夢は、円谷プロに入ること。当時は模型をつくるのがすごく好きだったんです。夏休みの課題で軍艦の「武蔵」や法隆寺五重塔を、キットを使わずにつくっていました。法隆寺五重塔の欄干の部分はとても大変で、夏休み中かけて、泣きながらつくったんですよ。大変な思いをしましたが、新潟市から賞をもらいました。

大学受験では、グラフィックデザイナーになりたいと思い美大のグラフィック科を受けたんですがうまくいかず、中学の美術の先生になるような学科に入りました。でも教師になる気はなく、卒業後、あてもなく東京に出たんです。グラフィックデザインをやりたくていくつも会社を受けましたが、どれも採用してくれなくて……絵のそばで仕事をしていられればいいやと思ったときに出会ったのが、学習研究社でした。学研に入社して入ったのが、絵本の編集部。保育月刊誌の編集の仕事でした。それまで絵本のことは全然知らなくてまったく興味もなかったんですが、そこで初めて絵本の世界にかかわるようになったんです。作家さんに会って話を聞けるのはうれしかったですね。「画材はなんですか？」とか直接聞けるから。「こういう企画で、こんな絵ができるんだ」って驚きもありますね。その頃はいろんな作家さんに会って、いろんな質問をしました。

◆すべてを変えてくれた『ごんぎつね』

▲『ごんぎつね』(新美南吉・作、借成社)

絵本の絵を描くようになってからも、苦労はしっぱなし。今でもよく覚えてるのが、「子どもが縄跳びしてるカットを描いてください」と言われたときのこと。縄跳びして、跳んでるときは縄はどこにあるんだ？ 持つ手はどんな風になってるんだ？って、わからないことだらけで。自分の手を見ながら描いたら、かわいい女の子が私のごつい手で縄跳びしてました(笑)

それでもその後、どんどん仕事が忙しくなって、年間16冊くらいの絵本の絵を描くようになったんです。ひと月に1冊以上ですから、ものすごい量です。それなのに、本屋に行ったら自分の本がまったくなかった。誰も読んでくれないのになんのために描いてるんだと、自暴自棄になりましたね。やっぱり向いてないんだ、もう絵描きはやめたい、と。

◆すべてを変えてくれた『ごんぎつね』でした。

絶望的な状態のときに、「これ描かない？」と借成社の編集者が持ってきたんです。もちろん話は知ってたんですが、最初はどうやって描いていいのかわからなかった。それで、何かをつかめればと新美南吉の故郷に取材に行ったんです。初めての取材でした。『ごんぎつね』に出てくる川や山を見に行ったり、南吉の生家や養子先を訪ねたり、その土地の人に「赤い井戸ってなんですか？」と尋ねたり……あの絵は南吉のふるりの空気で生まれたんだと思っています。

1986年の絵本だから、もう20年以上前になりますが、これまでの仕事の中で一番思い入れのある作品といえば、やはり『ごんぎつね』ですね。探し求めて見つけた、色鉛筆による画法イラストレーターになってから、ペンや水彩、アクリル、果てはぬいぐるみまでつくて、いろんな表現方法を探し求めていたんです。

◆一番大事にしているのはテキストとの対話

私は作絵をやることはほとんどなくて、挿絵をやることの方が多いんです。だからその中で一番大事だと思っているのは、テキストを読み込むこと。物語を読み込んでみて、それが自分とどう接点を持っているのか、「そうだね」と共感できる場所を探ります。絵本の絵は、物語の説明ではないんですよ。だから、物語だけで十分なんです。たとえば、「ひろーい海が見えました」という文があるとすると、その文章だけならすごく広い海なんだろうけど、絵描きか描いたら、やたら狭い海になるかもしれないですからね。物語を映画やテレビなどで実写版にしたときに違和感を覚えるのと同じです。だから、単なる物語の説明に終わらない絵を描くためには、その物語を自分の体の中に入れていく時間というのがとても大切。全部が全部すーっと入ってくるわけではないので、とにかくわからなければ読み込みます。

◆わが子と重ね合わせて描いた「ころわん」

▲シリーズ最新作『ころわんがよいどん!』

(間所ひさこ・作、ひさかたチャイルド)

ころわんとは、もう20年以上ものつきあいですが。描き始めた頃、ちようどうちの子が小さかったんですね。それで、自分の子と重ね合わせて、「あ、この子かわいい」と思ったんです。

子どもの中でも、好奇心に満ちた元気な子もいれば、好奇心はあるんだけど人見知りする子もいますよね。うちの子は人見知りするタイプで、ありをつぶすこともできないし、寄ってくると「こわーい」って言う。でも興味はあって、じーっと見てる。そういう子だったんです。そのあたりの、子どもが初めて物事に出会った新鮮さが、ころわんにも感じられたんですね。だからころわんのことは、犬ではなくて子どもだと思って描いてるんですよ。犬っぽいお話がくると、間所さんに「やめましょー」って言うんです。いやな絵描きでしょう(笑) …… 要約 ……

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

～90歳超え 深夜まで仕事～ ドナルド・キーンの晩年を 養子「キーン誠己」語る ＜上原誠己 青山77期＞



◆ドナルド・キーン◆ プロフィール

Donald Keene(1922年 - 2019年、96歳没)
ニューヨーク生。日本文学者。コロンビア大学教授。日本文化研究の第一人者。文芸評論家としても著作多数、日本文化の欧米への紹介にも尽くす。当初フランス語、16歳で大学入学、ギリシャ語、中国語、漢字に興味。18歳で源氏物語に魅了。第二次対戦で対日戦に通訳官で戦地へ。帰国後、同大学で教鞭、日本文化センター設立。35年間交互に日米に棲み、東日本大震災後、日本に永住。養子のキーン誠己と北区に住む。日本文学の伝道師を自認、日本文化を紹介・解説し、日本文化を翻訳し、「日本のシェークスピア」とも称された。

◆キーン誠己◆ プロフィール

本名:上原誠己。旧巻町、現新潟市西蒲区生まれ。実家は上原酒造(越後鶴亀の蔵元)。新潟高校77期、東京外語大仏語科卒。実家を継ぐも、文楽義太夫節三味線方の世界に入り、5代目鶴澤浅造に。日本文学者のドナルド・キーンから浄瑠璃など古典について指導を受けたのをきっかけ交友が深まり、ドナルドからの養子の申し出を受けた。ドナルドは日本国籍を取得し、戸籍上の本名を「キーン ドナルド」としていたため、養子縁組で誠己は「上原」から「キーン」に改姓。2019年2月までドナルドの私設秘書。

“ドナルド・キーンの晩年”

2022.6.28 Book Bang

2019年に惜しまれつつ逝去したドナルド・キーンさん。90歳を越えても『正岡子規』『石川啄木』といった長編評伝を発表し続けたが、その力の源泉はなんだったのか。養子のキーン誠己さんに話を聞いた。

今年には父ドナルド・キーンの生誕100年の年です。神奈川近代文学館などで回顧展が開かれますが、その父が晩年に選んだテーマが正岡子規であり、石川啄木でした。

ドナルド・キーンは三島由紀夫や川端康成、安部公房をはじめとした同時代の小説家たちと深い関係を切り結んだことで知られていますが、文学への関心は小説にとどまらず、詩への愛情は子どもの頃からのものであったと思います。彼は本質的に詩人だったのでないかと思うくらいです。父が亡くなったあとの書齋を眺めてみると、ひしひしとそう感じられました。俳句も詠みました。

子規の墓がある東京北区・大龍寺は住まいの近くですので、散歩がてら、よくお参りに行きました。また、啄木は洪民尋常高等小学校の代用教員をしていましたので、父と同じく教師でもありました。

この二人に対しては特別な感情を持っていたでしょう。小説家の平野啓一郎さんに対しては、こんなふうに語っていたそうです。“『正岡子規』はどちらかという、書かなければならないと思って書いた本でした。けれども、今連載している『石川啄木』は、書きたいと思って書いている本です”と。

2人とも明治に生きた詩人として、伝統的な日本の文芸の危機を肌で感じた人々です。子規は士族の出であり、啄木については「最初の現代人」と父は見なしていたので、2人は好対照ではありませんが、日本語そのものの危機と相対したという点では共通しています。父は『正岡子規』にこう書いています。

〈子規が偉大なのは、著名な俳人が欠如し、また西洋の影響下にある新しい詩形式の人気によって俳句が消滅の危機に晒されていた時に、新しい俳句の様式を創造して同世代を刺激し、近代日本文学の重要な要素として俳句を守ったからである。もし子規が俳句を作らず、批評的エッセイを書かなかったならば、短歌と同じく俳句もまた、生きた詩歌の形式ではなくなった連歌のように、好古趣味の人たちの遊びに過ぎないものになっていたかもしれない。〉

しかしいまや俳句は日本にとどまらず、HAIKUと呼ばれる世界中で愛される存在になりました。子規がそのことを知ったらどれだけ驚くことでしょう。



啄木については、こう書いています。
〈啄木は今から一世紀も前に死に、その後の日本が、大きく変化を遂げたにもかかわらずその詩歌や日記を読むと、まるで啄木が我々と同時代の人間のように見える。読みながら、我々は啄木と自分を隔てるものをまったく感じない。〉(千年に及ぶ日本の日記文学の伝統を受け継いだ啄木は、日記を単に天候を書き留めたり日々の出来事を記録するものとしてでなく、自分の知的かつ感情的生活の「自伝」として使った。啄木が日記で我々に示したのは、極めて個性的でありながら奇跡的に我々自身でもある一人の人間の肖像である。啄木は、「最初の現代日本人」と呼ばれるにふさわしい。)

啄木の短歌だけではなく、ローマ字で綴られた『ローマ字日記』を重んじて「傑作」とまで評したのは、紫式部や海軍情報士官だった時に読んだ日本兵の日記から日本文学の道に入った父らしいと言えるかもしれません。

ところで、彼が『正岡子規』を「新潮」に連載したのが2011年のことです。同じく「新潮」に『石川啄木』を連載したのが2014年から15年にかけてで、それぞれ89歳、92～93歳の時ということになります。父は90歳を越えても驚異的な集中力と持続力を発揮できる人でした。朝起きて雑事が済むと書齋に籠り、何時間も資料を読み、仕事をしました。休憩するのは私が食事の準備ができましたよと声をかける時くらい。夜の1時を過ぎても仕事を切り上げないようなことも頻繁にあつて、「お父さん、これ以上は無理になりますよ」と言っても、「僕は無理が大好きです」とにっこり返されたことをよく覚えています。

明るい人でもありました。書齋に籠って『ローマ字日記』などを読んでいるかと思うと、「面白いなあ、ちょっとここを読んでみなさい」といって嬉しそうに飛

び出してくるのです。そうした明るい好奇心が、集中力と持続力の源泉だったのかもしれませんが。(2022年6月1日談)

『石川啄木』ドナルド・キーン[著]角地幸男
『正岡子規』ドナルド・キーン[著]角地幸男



◆父ドナルド・キーンを語る。養子の誠己さん◆

北区西ヶ原の自宅近くにある霜降銀座商店街を散歩するキーンさんと養子の誠己さん。主な買い物もここで済ませた。

父ドナルド・キーンの最晩年、七年七カ月の歳月、寢食を共にし、私が言うのも妙だが、人並み以上に父と子の関係だったと思う。



キーン ～“天声人語”

2022. 6. 17 朝日新聞

日本文学者のドナルド・キーンさんが漢字と出会ったのは16歳のこと。アルファベットとは異なる表意文字の世界に引きこまれた。好きだったのは画数の多い字。「叡智(えいち)」や「憂鬱(ゆううつ)」を書けた日は爽快だった▼神奈川近代文学館で開催中の「ドナルド・キーン展」を見た。米軍将校として派遣された中国・青島で使った名刺には「金唐彩」の当て字。日本で署名する際も、姓キーンを多彩に書きわけた。鬼院、奇韻、希飲、祈因、嬉胤……▼右手に銃、左わきで和英辞典を抱えた写真もある。大戦中、アリューシャン列島に上陸し、日本兵が手投げ弾を胸にたたきつけて玉碎する姿に衝撃を受ける。一方で、日本兵の手紙や日記を解読し、辞世の歌や遺書の格調に驚く。のちに紀貫之や芭蕉らの日記を読み込む研究につながっていった▼ゆかりの品々を見て思い出すのは、米コロンビア大で一度だけ傍聴したキーン教授のゼミのこと。「あだし心は浮気心」!比翼連理は男女の深い契り!。日英両語を駆使して解説していく。話題は古今和歌集から楊貴妃、三島由紀夫へ自在に飛ぶ。驚嘆の2時間だった▼傍聴したのは2011年3月、東日本大震災の直後。「若いころ『奥の細道』をたどる旅をして、東北には思いがある。被災地が心配。退職後は日本に住みたい」と語り、その言葉通り日本国籍を得て、晩年在東京で暮らした▼あすで生誕100年。たくいまれな才能が、「叡智」や「憂鬱」と出会った僥倖(ぎょうこう)を改めてかみしめる。

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

『千代田区一番一号のラビリンス』
小説 <<森 達也>> 著
～意味は「皇居の迷宮」～
映画監督 青山83期



【森 達也 プロフィール】

1956年、呉市生まれ。新潟高校83期卒、立教大学では、自主映画製作集団「パロディ・アス・ユニティ」サークル。就職せず演劇活動に打ち込む。29歳の時、林海象の監督デビュー作『夢みるように眠りたい』に主演する筈だったが、森が入院したため代役として佐野史郎が出演し、佐野の演技力と作品のヒットの結果で役者を諦める。後も職を転々とし、不動産会社、商社、1986年テレビ番組制作会社へ転職。後にフリーにして制作。オウム真理教信者達の日常を追うドキュメンタリー映画『A』を公開。ベルリン国際映画祭に正式招待される。その後、「放送禁止歌」、「ゴーストライター問題」題材の映画「FAKE」、i-新聞記者ドキュメント等、タブーから目をそらさない姿勢で取り組んだドキュメンタリー作品を出している。



「皇室タブー」小説なぜ黙殺？ 森達也「あまりにいびつ」 2022/5/21 配信 毎日新聞

世に「菊タブー」なる言葉がある。天皇や天皇后について踏み込んで発言すること避ける空気、とでも言うか。そのタブーの沼にはまりかけているのがドキュメンタリー監督の森達也さん。3月に出した小説の主人公は退位前の上皇、上皇后両陛下である。だが、いくつもの出版社に断られ続け、やっと刊行されたかと思えば、メディアからほぼ黙殺されているのだ。【吉井理記】

◇上皇、上皇后ご夫妻が実名で

小説は「千代田区一番一号のラビリンス」(現代書館)。皇居の所在地がタイトル。3月に出版、重版もされたが、皇室が関心分野の一つである記者は同僚の美術担当記者に教えてもらい初めて知った。そんな「問題作」なのに、書評すらなかった。森さんが苦笑い。「そうなんです。書評はほぼ出ていなくて。いつもはどんな本を出しても、何かしら書いけるのですが、今回ばかりは……」

小説中の上皇、上皇后ご夫妻は「明仁」「美智子」と実名で。お二人の日常生活や公務、合間に交わされる近現代史や「象徴天皇」を巡る会話をタテ軸に、映画監督の「克也」が企画した天皇を巡るドキュメンタリー番組制作と周囲の人間模様をヨコ軸に絡め物語が進む。フジテレビ、NHK、安倍晋三元首相といった組織や人物も実名で登場する。

一番の読みどころは、ご夫妻で交わされる会話である。例えば2013年、秋の園遊会に出席した当時参院議員の山本太郎氏が、お二人に福島原発事故の実情を訴える手紙を手渡し、自民党議員や「保守」を自称する人たちから「天皇の政治利用だ」「不敬だ」などと猛批判された一件。

<「天皇の政治利用と怒っている人達がたくさんいる」「私の政治利用？」>

<「手紙を私に渡すことが、なぜ私を政治的に利用したことになるのだろう？」>

<利用するとかしないとか、何だか私の夫は国民や政治家たちの道具のようね。失礼しちゃうわ。ちゃんと意思のある人間よ>

あるいは戦争と歴史を巡るやりとりや独白。

<「国民の多くが自分達の過去や歴史に関心がないのなら」と明仁がつぶやいた。「私たちの存在意義が消えてしまう」「きっと都合の悪い歴史が嫌なのよ」「ならば、私たちの家系の歴史は、この国の多くの人にとって都合がいいのかな？」>

<少なくとも私を自分達の象徴だと思っている日本国民に、聞いてほしいことはたくさんある。夫はそう思っている。でも今は誰にも言えない。言ったとしても誰もそれを伝えてくれない。だから私が聞く>

◇番組も小説もキャンセル

もちろん小説である。会話は森さんの想像の産物だ。でも、本当にこんな会話がひそひそ交わされているのかも錯覚する。血とは、家系とは、象徴とは、戦後日本とは。分かったつもりになっていた記者も、そのむき出しの問いを目前に突きつけられ、考え込んだ場面があちこちにある。「この小説は20年近く前に書き始めたんです。小説でも触れているように、2005年にフジテレビの憲法特集の番組のために、天皇と憲法1条をテーマにした作品を撮りかけたのですが、途中で撮影中止を強要され、断念したということがあった。フジ上層部によれば、理由は『番組として成立しない』の一点張り。理由になっていないんです。題材が天皇だから、ということでしょう。それ以外に考えられません」

一体何がどうしてダメなのか、さっぱり分からない。だれもきちんと言わない。これが「タブー」と呼ばれるゆえんなのか。この空気は何なのか。やがて天皇を主人公にした小説を思い立つ。いくつか大手出版社に刊行を打診した。

森さんはすでにドキュメンタリー映画などでジャーナリズムの世界では著名人だ。小説はスムーズに世に出るかと思いきや――。

ここからが長かった。ある有名出版社では、一度は社内のPR誌での連載が決まったにもかかわらず、役員会で「これはまずいのではないか」という声が上がりがキャンセル。大手出版社、有名文芸誌からも「面白いが、ウチでは無理です」と断られ続けた。なぜ無理か何が「まずい」かやはり説明はなかった。「もちろん、出すさえないは出版社の裁量です。面白くないからと言われれば反論できない。でもそんなことを言われたことは一度もないんです。それなのに掲載や出版は拒まれる。これだけ続くと、何か別の理由があると思いたくなります。本当は退位する前に刊行したかったが、そんな具合で実現せず、結局は僕の最初の本(オウム真理教のドキュメンタリー撮影をつづった「A撮影日誌」)を出版した現代書館が手を挙げてくれました。ぐるっと回って、元の位置に帰ってきた気分です」

皇室を描いた小説を巡っては1961年、「風流夢譚」事件があった。「夢の中」の革命で皇族が処刑されると記述のある作家・深沢七郎の小説「風流夢譚」に、右翼が小説を雑誌掲載した中央公論社(当時)社長宅で家政婦人女性2人を殺傷したものだ。

もちろん、森さんの小説はそういう話ではない。

だがー。やっと刊行できたと思ったら、今度はほぼすべてのメディアに黙殺される事態が待っていた。「大手週刊誌も新聞社系の週刊誌もほぼダメです。ただしゼロというわけじゃない。「サンデー毎日」と『週刊新潮』に小さな書評が出た。でも『週刊新潮』『週刊文春』であれば、『こんな不敬な本を許していいのか』ぐらい、大きく批判してほしかったな。何でしようね。どう扱えばいいのか分からない、だから見ないようにする、といったような……」

記者も20年以上この仕事をしている。各メディアが取り上げない気持ちも感覚として分かる。面倒なのだ。社会から批判・攻撃されるリスクを減らしたい、つまり「火中の栗」を拾いたくないのだろうか。では天皇・皇室にのみ、このことを強く感じるのなぜか。戦後、憲法で保障された筈の言論や表現の自由が今なお大日本帝国時代の空気を克服できていない、というもつもらしい答えはあるが……。

◇自粛いつやめれば

小説の中で上皇、上皇后の両陛下が敬称なしの実名で登場することもメディアの腰を引かせる要因かもしれない。「これは小説です。主人公を『さま』とか『陛下』と呼ぶ小説なんて変でしょ。でもメディアにとっては、長年の習慣なのか空気なのか、敬称をつけないなんてありえない、という認識があるのかなあ」森さんも首をひねる。記者もこの原稿で「陛下」「お二人」などと記してきた。どこのメディアも皇室用語には規定がある。毎日新聞も「敬語を使うが多用しない」とされ、「陛下」「殿下」「さま」の用い方も決まっている。記者もこれに従っている。

思えばこれも不思議な話だ。憲法1条で天皇は「象徴」とあるが、それだけだ。国民は天皇に敬意を抱かねばならない、といった条文はないし、法律もない。でも読者・視聴者に根拠を何ら明示せず、例外的に敬語を使っているのだ。

「僕が映像の仕事始めてすぐに遭遇したのが、『昭和天皇崩御』を巡る自粛の嵐(89年。テレビもラジオも歌舞音楽は一切ダメ。いつ自粛をやめればいいか、その判断を誰もできない)。各局とも横にらみ。当時よりも言論空間は硬直化し悪化している。最たるものが天皇や皇室にかかわる議論や表現だと思う。今もテレビで活躍の大手タレントは、かつて昭和天皇の言動をギャグにしたが、今や絶対にテレビに流れない。上皇、上皇后ご夫妻の結婚時(59年)には「ミッチーブーム」が巻き起こったが、テレビで「ミッチー」と呼ぶ人はいなくなった。

「2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」

編集:工藤義夫(事務局)

《起業立国,土台は個の力》 好循環つくれるか；南場智子 2022年6月8日 日本経済新聞



《南場智子・プロフィール》

青山89期。津田塾大学英文学科卒、4年次成績1位の奨学金で、姉妹校プリンマー大学1年間留学、経済学専攻で高成績、経済学者の道も考えた。マッキンゼー勤務、ハーバードMBA。DeNA社創業、現会長。プロ野球横浜ベイスターズ球団のオーナー。昨年から経団連副会長も。

岸田政府の「新しい資本主義」の実行計画は、スタートアップ育成がひとつの柱だ。日本社会のあり方を変える覚悟と行動なしには実現しない。これからの動きに注目したい。キーパーソンは南場智子氏だ。ディー・エヌ・エー(DeNA)の創業者で、スタートアップ振興をリードする経団連副会長でもある。

起業のハードルをとことん下げる。そう考える同氏のもと、DeNAは2019年にデライト・ベンチャーズ(東京・渋谷)を設立した。DeNA社員などから起業家候補を募り、ともに事業計画を練って会社の立ち上げを手伝う。

候補者は事業のアイデアがなくてもいい。用意された2000～3000の事業案から選べる。5000万円まで予算が使え、エンジニアなどの紹介も受けられる。「客員起業家」の身分でデライトから給与をもらう仕組みもある。至れり尽くせりで過保護では、と感じるが「無駄な苦労はさせない」のがデライト式だ。これまで3件が会社として独立した。南場氏はできる人材を囲い込んで会社の中だけを強くしようとは思わず、起業志望の社員がいれば進んで背中を押す。「将来提携したり、一緒に大型プロジェクトを手がけたりできる。失敗したらDeNAに戻ってきてもいい」

デライトのようにシステムチックに起業家を輩出しようという「スタートアップスタジオ」は日本に複数あり、4月には協会が本格始動した。南場氏が顧問をつとめる。起業家の量産体制といえる。起業の裾野を広げることは大事だが数を追うのは本筋ではない。成長株を見だし、大成させる流れがある。だから資金を投じ起業家を支えるベンチャーキャピタリストの質が重要になる。日本のベンチャーキャピタル(VC)は独特の歴史を歩んできた。決定打は1987年の日本合同ファイナンス(現ジャフコグループ)の株式会社店頭登録だと同社出身で日本のキャピタリストの草分けである村口和孝氏は訴える。

起業立国で世界のモデルとなった米国では投資の主体はキャピタリスト個人だ。ところが日本では、証券会社や銀行が70年代以降に設けた「VC会社」が主役になった。大手のジャフコが公開企業となり、組織的な管理をするVCが業界標準として定着した。

スタートアップは本来、先行きが見通しにくいのに、ジャフコでは事業が成功するエビデンス(証拠)探し、審査作業に膨大な労力を割いたという。起業家という個人の柔軟な創造性を企業統治の硬い論理で扱おうとした。「こちら個人でないと思い切った判断ができない」。村口氏は会社を辞めて98年に自らファンドをつくる。翌年、投資したのが創業間もないDeNAだった。

◆VC誘致には透明性も必要

4年前、ジャフコは会社組織型からキャピタリスト個人が主軸の体制に転換すると表明したが、日本は世界的に異質なサラリーマンキャピタリストがなお圧倒的だ。事業会社がつくるコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)もノンプロを増やしている。村口氏は、深い経験のあるキャピタリストは日本にせいぜい100人。「この10倍はほしい」不足を補うように政府の実行計画は、海外のVCに対する公的資本の投入を盛り込んだ。経団連も世界有数のVC誘致を提言する。幾人か内外のキャピタリストに聞いたが、そう簡単ではない。最前線で活躍するキャピタリストは自身の才覚を頼りに活動し、投資の成功で巨額の報酬を手にする専門職だ。明快なキャピタルゲイン税制などの仕組みが整わず、思い切った仕事ができるのが不透明な日本は魅力的ではない。

そもそも日本への投資を条件とするようなひも付き資金は、自律を重んじるキャピタリストの思考に合わない。納得のうえ存分に腕を振るえる環境が必須だ。日本としてキャピタリストを育てる努力も怠れない。シリコンバレーのキャピタリスト、中村幸一郎氏は欧州が参考になるとみる。

◆個人挑戦をリスクペクトする社会へ

00年代、米国のキャピタリスト教育プログラム(2年間)に、スウェーデンは本拠地2人が参加した。のちに彼らはキャピタリストとして同国発の音楽配信会社スポティファイに投資し成功。米国で得た知識と人脈が生きたのだ。これが刺激となり欧州全体で起業が連鎖し、豊かな生態系ができた。米グーグルやインテルの大規模CVCは若いキャピタ

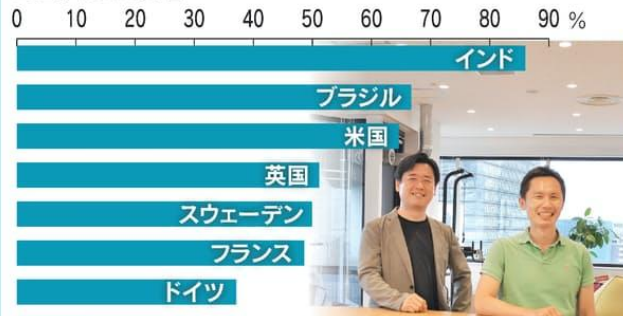
リストの登竜門で、実質的に訓練の場になっている。日本から行って学べれば価値がある。「日本には一流キャピタリストが数えるほどしかない」。南場氏も危機感を持つ。起業家同様、個性際立つ人材を確保する具体策が欠かせない。

南場氏がそれまでのDeNAの歩みを記した13年の著書「不格好経営」はいま読んで面白い。創業期メンバーと村口氏ら支える人たちが交じり合いエネルギーを発する物語だ。組織に埋没せず、個人がのびのびと能力を発揮でき、成功でも失敗でも個人の挑戦がリスペクトされる。そういう社会の実現こそ、起業で栄える国にたどり着く王道だ。小手先の制度いじりや資金のばらまきはピントがズレている。

スタートアップ育成は、個人の力を生かし切れない社会という問題に行き着くと南場氏はきつと認識している。これを解くのが南場物語の次なるテーマではないか。

日本は他国に比べ、起業マインドが低い

「事業を始めるのに必要な知識やスキル、経験がある」と回答した割合



(出所)グローバル・アントレプレナーシップ・モニター調査
デライト・ベンチャーズは起業のプロセスを懇切丁寧にサポートする



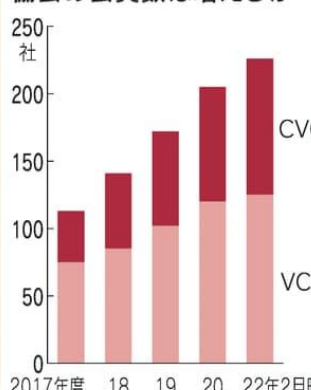
DeNAの南場氏

起業に失敗した人を探して大企業が採用するような時代が必ず来る。心配せずにまずは起業してほしい

一流のキャピタリストが足りない。増やすためのビジョンを持って国全体がどのくらい動けるか

どうキャピタリストのレベルを上げるか

日本ベンチャーキャピタル協会の会員数は増えるが...



経団連は「世界有数のVCを日本に」と訴える

トップクラスの人材の誘致・日本拠点の設立

海外VCに投資する公的な専門ファンドの設置

高度外国人材が安心して生活できる受け入れ態勢の整備

(出所)スタートアップ躍進ビジョン

“2022年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

「ドレスデザイナー・小泉智貴」 ～ 歌代 幸子 ・ 文 ～ (青山90期) 2022年3月5日 AERA



《歌代幸子 プロフィール》

(うたしろ・ゆきこ) ノンフィクションライター
1964年新潟生まれ。青山90期。学習院大学卒業後、出版社の編集者を経て、ノンフィクションライターに。スポーツ、人物ルポルタージュ、事件取材など幅広く執筆活動を行っている。著書に、『音羽「お受験」殺人』、『精子提供—父親を知らない子どもたち』、『一冊の本をあなたに—3・11絵本プロジェクトいわての物語』、『慶應幼稚舎の流儀』、『100歳の秘訣』、『鏡の中のいわさきちひろ』など。

昨年末の紅白歌合戦でMISIAの衣装を手掛けた。桜色のドレスにはMISIAが歌う「明日へ」の希望が込められている (写真=小山幸佑)



ドレスデザイナー、小泉智貴。子どもの頃からファッションが好きで、自分で洋服を作っていた。ジョン・ガリアーノを雑誌で見て、その世界観にあこがれた。自分らしいデザインを模索していく中、ラッフルドレスにたどり着く。世界的なスタイリストの目に留まり、NYで初のコレクション。一夜にして世界で注目されるようになった小泉智貴。希望をくれたドレスで、世界に希望を届けたいと願いを込める。【写真】今では小泉さんの仕事を支えるパートナーになった妹さんと

* * *
晴れやかな顔でリンクに立つ、北京五輪フィギュアスケート男子銀メダリストの鍵山優真。エキシビションでは、MISIAの「明日へ」の調べに乗って優美に銀盤を舞う。その衣装をデザインしたのは、ドレスデザイナーの小泉智貴(こいずみともたか)(33)だ。

スポーツの衣装は極限のパフォーマンスを求められるものなので、ドレスとは違う難しさがあり、制限が多い中での作業は勉強になったと振り返る。

「楽曲の『明日へ』には雪解けを待つ春への思いがあり、自然の芽が力強く生まれる瞬間をイメージして、空と草木を白と水色と緑のフリルで表現しました。鍵山さんはすごく若いし、黒のカッコいい衣装が多いので変化をつけたくて。ちょっと可愛い感じで舞台映える衣装になったかなと」気どりのない笑顔で話す小泉は、物腰も柔らかだ。

小泉が作るフリルをたくさん使ったカラフルなラッフルドレスは国内外で人気が高い。YUKIや加藤ミリヤ、ドリカム、吉田美和などがステージで着用しており、海外ではレディー・ガガやビョークなどのアーティストから支持される。ニューヨーク・メトロポリタン美術館のパーマネントコレクションに選ばれたり、マーク ジェイコブスやエミリオ・プッチとコラボしたり、小泉はむしろ海外での知名度の方が高い。

小泉のドレスが世界中の目にとまったのは、2021年7月23日、東京オリンピックの開会式だ。淡雪のようにフリルをちりばめた白いラッフルドレスをまとい、MISIAは国歌を朗々と歌いあげた。ふわりと広がるラインは多彩なグラデーションをなし、虹のように舞台上で浮かびあがる。「ひと目見て、純粋に美しいと思えるもの。世界中の人たちの目にふれるので、優しさや強さをもつピュアで美しいドレスを作りたいかったです」

■批判覚悟で作ったドレス 反響大きく新聞に投稿も

小泉のもとへオファーがあったのは開幕2カ月前。コロナ禍で賛否渦巻く最中である。正直、引き受けるかどうか、心は揺れた。「でも五輪の大舞台で依頼されたのはチャンスと思い、『やりたいです!』と。もし断って誰かがやるのはちょっと嫌かなと。だったら自分が責任をもって、世界中に希望を届けたいと思ったので」

ほぼ1カ月の強行スケジュールで縫製を任せられたのが、兵庫県西宮市でウェディングドレスを手がけるアトリエのスタッフだ。気心も知れているチーフの林美亜は、格別の思いを受けとめていた。「あの状況では批判を受ける可能性もあることを覚悟され、使命を背負う緊張感もありました。それでも美しいものは必ず伝わる、こういう時こそ希望になるドレスを届けたいと言われたのです」

デザインしたのは光のプリズムのようなドレスで、30色ほどのマルチカラーで表現する。使ったオーガンジーは100メートルほどで、ペットボトルをリサイクルした生地だ。フリルを一つひとつ縫い、大輪の花のようなドレスに仕上げる作業は大変だが、「時間をかけるほど可愛くなるから」と手間を惜しまない。

最後は皆で手縫いをしながら追い込むが、いつも和やかだったと林はいう。「最後のゴールを思い描き、ポジティブな気持ちでやればきっと上手くいく。良いものを作れば絶対認めてもらえるということも教えられました」

MISIAが舞台上に登場すると小泉のスマホは鳴り続け、反響は大きかった。生地の産地である石川県の女子高校生からは、コロナ禍で沈みがちな気持ちが明るくなったと地元紙へ投稿があった。

「私は、前を向いて進んでいきたい。この苦しみを抜けた先には希望に満ちた未来が待っているはずだから。あのドレスのように虹色に輝く、美しい未来が待っているはずだから」と。

華やかなファッションは、小泉にとっても未来への希望を与えてくれたものだった。

少年時代を千葉の木更津で過ごした。4歳の頃に父母が離婚。シングルマザーになった母の一恵は姉夫婦の葬儀会社で働き、3人の子を育てた。

「智貴は小学生のとき、私の誕生日にお好み焼きを作ってくれたんです。わざわざ電車に乗ってデパートへ行き、ホタテとか海産物まで買ってきて。もう泣けちゃいましたね。優しくて反抗期もなかったのが、逆に大丈夫かなと心配もしましたが」

お洒落な母は、自分が好きなブランドの子ども服を雑誌で見て注文し、子どもたちに着せていた。次男の智貴は手芸も得意だったと母はいう。

「小さい頃は折り紙が好きで『折り紙の本が欲しい』というので買ってあげると楽しそうに折っている。女の子がドレスを着た絵も描いていました。家庭科で裁縫を習うと、針と糸を持って何か作っていて。普通のお母さんは『危ないからやめなさい』と言うのですが、私も放ったらかして」 (文中敬称略)

(文・歌代幸子)
※記事の続きはAERA 2022年3月7日号に。

著作紹介 ; 『鏡の中のいわさきちひろ』



年会費納入者一覧 ; R4.4.1~R4.9.1 上半期

51回(1名) 北村 茂
56回(1名) 赤坂長弥
59回(6名) 梅沢貞雄 岡田 久 小村幸久 茂泉喜彦 高橋晴夫 納谷喜郎
60回(7名) 笠原 功 金山常吉 杉野剛博 高城英雄 中田 亨 早川貞夫 丸山敏視
61回(9名) 安宅久憲 安藤友憲 草間光俊 小林孝司 小林元雄 田中 宣 徳田晋也 長沼雄峰 村山 健
62回(3名) 近藤哲朗 渡辺貢英 渡辺千里
63回(1名) 浅野康一
64回(8名) 植村頼首 太田健治 佐藤 章 須田頼治 高橋正幸 星 満 樹湯晴夫 松田 勲
65回(7名) 安藤宜清 五十嵐徹 鈴木衛士 濱田庄市 村木利夫 山本和親 横山修二
66回(3名) 石山芳春 稻月喜一 吉田六左門
67回(6名) 岡崎 功 小野勝義 片山忠一 佐々木邦夫 寺井 宏 三堀 浩

68回(6名) 上村頼子 草野 佐 重野康人 長沼誠二 濱田庄司 渡邊千艦
69回(5名) 青木利祐 小黒朋弘 佐藤孝靖 高木敏之 矢川一義
70回(3名) 池田好正 鈴木正俊 渡部美那実
71回(6名) 太田 裕 柄沢 卓 高橋 稔 西尾 レン 堀 清忠 松田裕子
72回(11名) 金巻裕史 小嶋修一 小林正昭 近藤 正 齊藤俊正 富田由李 中地光子 野村耕治郎 古山恒夫 宮村 晋 横堀 弘
73回(3名) 雨宮則夫 飯村 修 山田美成
74回(32名) 藍沢幹人 味方 冽 池田正行 池田 裕 石井 明 和泉 潤 伊藤 宏 岩城修平 大石憲一 大田正孝 大滝 均 工藤義夫 解良和郎 小林淳子 坂井 靖 坂爪久男 佐藤信秋 佐藤俊栄 佐藤正也 関川修一 高橋 保 高橋信郎

74回(続) 田村栄作 土屋彰義 沼田 清 橋本昭一郎 原 信一 古海正子 丸山直人 横川三男 若林源基 渡部終五
75回(14名) 有菌順子 五十嵐正 大塚恵子 笠井 忠 木戸 守 白鳥十三 高木久夫 田村 久 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 萬歳信行 藤井建一 藤縄利勝
76回(25名) 青山耕一 明村澄雄 浅妻 厚 阿部令一 天野直二 岩橋俊朗 大竹力三 賀谷彰夫 木下正仁 後藤徳広 小松澄子 小宮山信男 近藤壽邦 鈴木茂夫 田中邦直 中川英二 長北 学 西沢芳樹 八田進二 浜田正継 林 誠 細谷洋一 湊 勝 湯本雅恵 渡辺 紘
77回(6名) 片山 等 北村一雄 佐藤 茂 時岡高志 長谷川 実 山田民夫
78回(7名) 石丸隆夫 太田秀樹 斎藤庫之丞 志藤洋子 須田幸子 肥田博子 村田光男

79回(9名) 伊藤 毅 内山 修 小田章治 河 正子 川上康夫 小池康義 鳥羽正尚 富山浩司 林 綾子
80回(6名) 青木隆次 大霜博之 長 正子 川名正敏 小林亮介 竹本泰子
81回(4名) 越野昌芳 玉木勝一 成海孝二 山田 徹
82回(3名) 日下部朋子 小亦 斉 宮村伸一
83回(6名) 浅間芳朗 遠藤光郎 佐藤 扶 高山佳郎 野呂咲人 山口虎彦
84回(7名) 朝倉仁樹 飯塚雅士 新宮和生 田崎正巳 野口俊介 嶋 昌樹 星野郁夫
85回(6名) 今井豊重 奥村 基 塩田拓哉 田中 清 田村 誠 森 大輔
86回(2名) 斎藤 健 宮腰重三郎
87回(2名) 南 正人 渡辺政城
88回(1名) 今井信一郎
89回(2名) 紺野由紀子 広川 孝
90回(12名) 勝山達志 木村和人

90回(続) 小林美奈子 小林 到 斎藤結花 斎藤 彰 坪井俊樹 坪井俊樹 中村 泰 樋口正史 森 豊 渡辺修也
91回(1名) 真保恵美子
93回(1名) 近 貴志
94回(2名) 小松朋子 藤沢健司
96回(2名) 浜田恒平
99回(2名) 君和田俊裕 町田清彰
100回(1名) 吉原貴之
101回(1名) 折笠智則
103回(1名) 鷲尾英一郎
110回(1名) 酒井優理子
113回(1名) 関 佑樹
115回(2名) 岡村晋之祐 小甲洋輔
118回(1名) 会田俊貴
119回(1名) 嶋 孝哉
121回(1名) 柄澤秀親
124回(1名) 寺井 悠

◆その他
複数年 前納者 (合計除外)
*第72回 西村正徳 (5年分~2021) またお願いします。
*第74回 岡村康生 (5年分~2022)
*第74回 青海 潔 (5年分~2024)
*第74回 川田澄子 (5年分~2022)
*第84回 星野紹英 (25年分~2045)
◆ご寄付
*第80回 長 正子 (3千円)

本会は、皆様の年会費で運営しております。
ぜひ、納付のご支援ご協力をお願いします。

◆ 会計報告 ; 2022年度決算見込 ◆
上期末時点での報告。 総会は時期未定
(注 ; 2022.年9月1日の集計)

Table with financial data: 東京青山同窓会収支表, 2022年度予算 及 <上期実績 & 下期見込>, (令和4年4月1日~令和5年3月31日), ◆令和4年9月1日見込(金額:円)

目標 400名!
当同窓会は皆さまの「年会費」によって運営されています。
年会費納付のご協力をどうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

■ 会員ご訃報 ■
(敬称略)
R4.4 ~ R4.8月 末までに
事務局で把握した方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Table with columns: 卒回, 御氏名, 逝去日. Lists deceased members and their dates.

集計 (~2022.9.1)
納付者数計 250名
納付額計 588千円

《お詫び》
赤字は紙郵送時の修正部分です。



“あの歌の由来 ② 「恋人よ」・・・ある青山の人に”

編集;工藤義夫(事務局)

～“あの歌”ができるまで～
<恋人よ>
2022.6 再構成

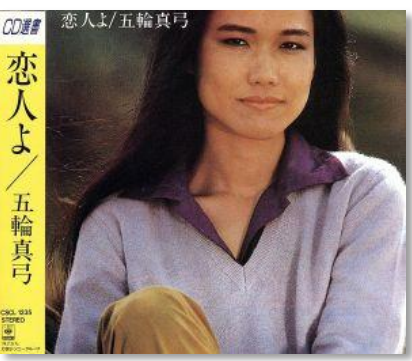
恋人よ ♪ ～1980年誕生

五輪真弓 ～ 作詞・作曲・唄

枯葉散る夕暮れは
来る日の寒さをものがたり
雨に濡れたベンチには
愛をささやく歌もない
恋人よ そばにいて
こごえる私の そばにいてよ
そしてひとこと この別れ話が
冗談だよと 笑ってほしい

砂利路を駆け足で
マラソン人が行き過ぎる
まるで忘却のぞむように
止まる私を誘っている
恋人よ さようなら
季節はめぐってくるけど
あの日の二人 宵の流れ星
光っては消える 無情の夢よ

恋人よ そばにいて
こごえる私の そばにいてよ
そしてひとこと この別れ話が
冗談だよと 笑ってほしい



歌の誕生 ～ 1980年

◆木田高介 ～ ◆

この曲は、五輪がデビューした当時のプロデューサーで、1980年5月に交通事故死した**木田高介(本名:桂 重高/青山75期相当;2年時転校。31歳歿)**のことを思って書き上げた曲でもある。

- 1980年6月録音、同8月リリース。
- ・第22回日本レコード大賞・金賞
- ・第9回FNS歌謡祭・最優秀歌唱賞

◆木田高介・追悼コンサート)◆
～ 東京会報64号に既掲載 ～ より
<1980年・追悼コンサート>

山中湖での交通事故死から約1ヶ月後の1980年6月29日、日比谷野外音楽堂で「木田高介・阿部晴彦追悼コンサート」が開かれ、1万人近くファンが集まった。この日は明け方に地震があり、一日中雨模様であった。午後2時開場、3時開演、午後8時終了。すべてチャリティー、売り上げは二家族の遺族に送られた。

参加ミュージシャン:ザ・ナターシャ・セブン(高石ともや・坂庭・城田と石川)、オフコース(小田和正・鈴木・大間・清水・松尾)、かぐや姫(南こうせつ・伊勢正三・山田パンダ)、風(伊勢・大久保)、五つの赤い風船(西岡たかし・長野・東・藤原秀子)、吉田拓郎、小室等、遠藤賢司、斉藤哲夫、下田逸郎、かまやつひろし、イルカ、リリィ、はしだのりひこ、北山修、ダ・カーポ、山本コウタロー、五輪真弓、加川良、沢田聖子、ダウン・タウン・ファイティング・ブギウギ・バンド(坂庭の弟も出演)、金子マリとバックスパニー、チャー・スピードウェイ、スクランブル・エッグ、上条恒彦、倍賞千恵子、吉川忠英、瀬尾一三、岡本おさみ、喜多条忠。...

曲は;喜多条司会、ダ・カーポ「結婚するって本当ですか」で始まり、赤い風船を中心に「遠い世界に」で幕を閉じた。**ここまで揃った顔ぶれは多分後にも先にも無い。**また宇崎竜童が何度も写真を撮っていた。

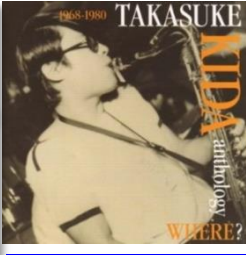
印象的なのは北山修が泣きながら「帰ってきたヨッパライ」、オフコースが無伴奏で「いつもいつも」、吉田拓郎が「アジアの片隅で」を30分近く歌ったことなど・・・。

木田といえば、「神田川」「なごり雪」「出発の歌」「ルームライト」「魔法の黄色い靴」「私は泣いてます」「結婚するって本当ですか」などの編曲が有名だが、ラスト全員で歌ったのは木田とは無縁の「遠い世界に」。

◆エピソード;木田の葬儀に参列した**五輪真弓が木田の妻の悲嘆ぶりを目の当たりにしそれを基にして作った楽曲が彼女の代表作となる「恋人よ」であった。**◆



きた たか すけ
木田高介
31歳歿
青山75期(→和光高校卒)、東京藝大打楽器科中退、→ジャックス&ナターシャセブン島で演奏、ドラムサックスフルトピラフォン等。～「出発の歌」「神田川」「結婚するって本当ですか」等編曲。アレンジ/プロデューサー。



楽器は何でも天才!
↓高校時代は軽音楽部。

ジョリー・チャップスの練習風景 ; 1963～1964年頃 新潟高校・体育館内の部室にて



池一:74回 桂重高:(75回)ドラム 佐藤正也:74回 大竹海二:74回 藤間邦雄:75回
アルトサックス 立石喜一郎:75回キター トランペット トロンボーン トランペット

“恋人よ” ～五輪真弓



ミュージシャン・木田高介

